

# Colorful

令和4年6月24日(金)

久賀中学校1, 2年A組

文責 松尾 あかね



## 久賀っ子の心を見つめる教育週間(6/10~6/16)

デイサービス交流や、いもの苗差し・プール掃除、児童・生徒総会などの様々な活動を通して、自分や周りの人の「心」を見つめ合い、「命とは何か」、「命を大切にするとはいか」について考えました。また、朝の会や帰りの会では、中学校の先生方からのお話があり、これまでの生活をふり返り、自分の言葉や行動が相手を大切にしたものだったかについても考えました。「心を見つめる教育週間」で考えたこと、感じたことを、「命」や「心」を大切にすることをきっかけになってほしいと思います。教育週間の子どもたちの様子をいくつかご紹介します。

### 6月10日(金)デイサービス交流



学校のすぐ近くにある「デイサービス久賀」にお邪魔して、利用者みなさんと交流をしました。自己紹介や、小中学校からの出し物、肩もみトーク(肩もみをしながら、久賀や五島のことについておしゃべりする時間)などをしました。出し物では、アニメ「サザエさん」の曲に合わせて体を動かすエクササイズを行いました。緊張しながらも、練習の成果を出すことができました。

利用者さんが聞こえやすくなるように、大きくゆっくり発表しようとしたり、優しいまなざしや、うなずきでお話を聞いたり、目線を合わせてお話をしたり…普段の学校とは一味違った、優しく暖かな子どもたちの姿を見ることができました。



### デイサービス交流を終えて…(生徒の感想より)

【睦景さん】

おばあちゃんたちが、一緒にサザエさんのストレッチをしてくれたり、歌ったり、手拍子をしたりしてくれて嬉しかったです。肩もみの時は、何度も「ありがとう」と言ってくれて嬉しかったです。今後もみんなが喜ぶように、楽しみたいです。

【幹仁さん】

肩もみトークで、「久賀の好きなどころは何ですか?」と尋ねると、(おばあちゃんたちは)「自分の住んでいるところ」と答えていました。自分も住んでいるところや住んでいたところを好きになって、大切にしたいと思いました。次回は自分たちで活動を考え、動いていけるようにしていきたいです。

【福太郎さん】

利用者さんたちが一緒に笑ってくれたときは、私も嬉しかったです。司会の役割もやりとげましたが、もう少し発表と発表の間にアドリブを入れれば良かったと思います。2学期はもう少しテンションを上げてやってみます！

【蒼奈さん】

自分たちの発表をしたとき、どの方も笑顔で一緒に活動(エクササイズなど)をしてくださって、とても嬉しかったです。そして、肩もみトークンでは、久賀島が好きだという方がほとんどだということがわかり、久賀島のことを誇りに感じているのだと思いました。次回はもっとゆっくり話せるようにしたいです。

【優樹さん】

みなさんが、笑顔で「頑張ってください」や「うれしかったです」などと言ってくくださったので、次も頑張ろうと思いました。もっともっとみなさんに笑顔になってもらい、楽しみにしてもらえるように頑張ります。

**6月13日(月)「心をつめる」道徳公開授業～絵本「100万回生きたねこ」より～**



絵本『100万回生きたねこ』を読み、「命の有限性」や「命の重さ」について考えました。この絵本では、100万回も生き返り、死ぬのを恐れず、一度も泣いたことがない「ねこ」が、白いねこの出会いや家族の存在、愛する大切な者の死を通して、初めて涙を流し、「命」の尊さを知るお話が描かれています。

○「自分や周りの人の命を大切にするとはいは？」(生徒の感想より)

【幹仁さん】思いやりをもって行動すること。

【蒼奈さん】「死んでもいいや」という考えではなく、自分が死んだときに周りの人が悲しむということを考えて、自分自身が生きよう(生きたい)と考えること。

【優樹さん】人を不用意に怒らせたり、嫌になることをしたりしないこと。

○授業を終えて・・・(生徒の感想より)

【睦景さん】自分の周りの人に嫌な思いをさせずに、相手に優しく接することの大切さが分かりました。

【福太郎さん】自分が一生懸命に生きることも大切だが、それと同じように周りの人も生きているので、それを否定するようなことをしてはいけないのだと思いました。

**6月15日(水)いもの苗差し～地域の方々と一緒に～**



**6月16日(木)児童・生徒総会**

令和4年度の児童・生徒会活動で、みんなが楽しく安心して過ごせる学校にするために、どのような活動をするかについて話し合いました。新メンバーになり、生徒会役員として初めて児童・生徒総会に臨む生徒が半数以上の中、それぞれがかなり緊張していました。しかしそんな中でも、一人一人が今できることに責任をもって真剣に取り組むことができたと思います。今回の経験を生かし、中学生が率先して、学校をさらに引っ張ってほしいと思います。

